

令和2年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

【理工学部】

①学生との協議の場について

実施日	実施内容
各学科による	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一堂に会しての実施は困難であること、学生からの改善・要望等は、各学科の事情に照らして協議をした方が望ましいことなどから、各学科において学生と協議を行い、その結果をFD委員会において取りまとめることとした。

②改善点について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
・双方向授業（学生の声を聞きたい）	○			駿河台校舎20教室、船橋校舎27教室に对面授業のZoom配信を目的としたWebカメラ及び音声機器を設置した。
・テスト実施方法の工夫	○			・CSTポータルIIのテスト機能、Google formsを利用したオンラインテストの実施。 ・テストの実施時期が集中しないよう学科内で一覧表を共有し分散化を図っている。 ・オンタイム授業及び前後の時限の授業との時間調整を図っている。
・出欠や理解度評価の方法をできるだけ統一する	○			・出欠管理の方法については、学科ごとにCSTポータルII、Google classroom, moodleのいずれか一つに統一して管理している。 ・理解度評価の方法を統一することについては、授業科目の特徴や到達目標が異なるため、一律の基準とすることは困難であるが、各授業回の理解度が適切に確認されているものと考えられる。
・出席確認のための課題を行わない	○			リアクションペーパーの利用など、授業時間内に提出可能なボリュームの課題とし、学生に過度な負担がかからないよう配慮している。
・メモなどの時間を考えた時間配分	○			令和2年度に実施したオンライン授業アンケート結果を各学科にフィードバックし、授業改善に向けた取組を行っている。
・CSTポータルの補強	○			サーバー機とメモリの増設を行い、同時アクセス数及び学生・教員の操作性が向上した。
・ブレイクアウトルームやウェビナーなど有料アイテムも活用しながら授業をしてほしい	○			授業科目の特性に応じて、ブレイクアウトルームを使用してグループディスカッションを行っている。
・対面のみでしかできないことは、対面でできる環境づくり	○			QRコードを利用した着席位置の記録（QR着席トレーサビリティ）を導入した。また、入構管理システムの導入、検温機をはじめとして、一方向の順路を確保するための階段の表示や感染予防注意喚起表示等の掲示、パーテーション設置、マスク用ゴミ箱や消毒液の増設等の整備を行っている。
・対面時よりも学生のやる気を引き出す講義	○			・定期的に教員間でのミーティングを実施し、オンライン授業における各授業での取組事例や工夫・改善方法を共有するなど継続的な改善を図っている。 ・オンライン授業の特性を活かし、チャット機能を利用するなどして受講生との意思疎通を図っている。

③今後の要望について

項目	実施済	検討中	実施不可	実施内容
・課題のフィードバック	○			CSTポータルII、Google formsなどを利用してフィードバックに努めている。
・交流会（Zoom）グループ活動をしたい（授業）	○			駿河台校舎20教室、船橋校舎27教室に对面授業のZoom配信を目的としたWebカメラ及び音声機器を設置した。

令和2年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく改善報告書

・授業の質統一	○		授業アンケート結果を分析し、各授業の実施方法等を教員間で共有し、質の確保に努めている。
・キャンパスの有効活用	○		QRコードを利用した着席位置の記録（QR着席トレーサビリティ）を導入した。また、入構管理システムの導入、検温機をはじめとして、一方方向の順路を確保するための階段の表示や感染予防注意喚起表示等の掲示、パーティション設置、マスク用ごみ箱や消毒液の増設等の整備を行っている。
・学生の理解度チェック	○		演習課題の実施、質問時間の確保、レポート提出、Webテスト、リアクションペーパー、メール対応等により理解度を確認しつつ授業を行っている。
・実習の配信はそのまま続けてほしい	○		基礎疾患や感染リスクへの不安のある学生及び通学圏内への移動が難しい学生など、特段の事情がある学生については、オンラインで授業を受講できるように配慮している。
・図書館の開放	○		貸出・文献複写の利用サービスを行っている。学生の入構許可日に限り入館することができる。貸出図書は予めOPACで選んだ上で来館し、図書館滞在時間は概ね30分以内としている。入構許可と連動して閲覧室は2時間を単位として利用可能となっている。
・対面講義のための復習の動画	○		オンデマンド講義では、授業動画を復習に活用している。
・オンデマンドと対面の併用	○		実験・実習科目だけではなく、座学についても隔週で対面授業を受講できるハイブリッド型での授業を行う。
・今までの評価方法の見直し	○		メディアによる授業の実施科目では、理解度確認の演習課題を実施し、それに基づいた評価方法を推奨している。
・対面講義を行える環境づくり	○		QRコードを利用した着席位置の記録（QR着席トレーサビリティ）を導入した。また、入構管理システムの導入、検温機をはじめとして、一方方向の順路を確保するための階段の表示や感染予防注意喚起表示等の掲示、パーティション設置、マスク用ごみ箱や消毒液の増設等の整備を行っている。
・遠隔での質問対応の工夫 (メールでの質疑応答では記号記載が難しい)	○		FD活動としての課題であり、教員間で意見交換を行い、引き続き工夫・改善に努めていきたい。
・確認テストの見直し（小テストを定期的に行ってほしい、期限通知を送ってほしい）	○		CSTポータルIIのリマインダ機能を活用し、未提出者には期限前に通知が届く設定にしている。

④改善や要望を受けて、理工学部から学生へのメッセージ

令和2年度学生FD CHAmmitの学部提案書に基づき、理工学部では様々な改善に取り組んでいます。

ハードウェア面では、教室にカメラやマイクを新たに設置し、令和3年度前期より双方向授業の環境を整えました。

また、CSTポータルのサーバー機及びメモリを増設し、操作性が向上しています。

授業の課題や理解度確認は、可能な限り学科内で情報共有を行い、皆さんへの事前説明を心掛けるようにしています。

感染症対策の一環であるQRコードを利用した着席位置の記録、注意喚起を促すための構内放送は教職共同で実施しています。

図書館での貸出・文献複写サービス、学習スペースの提供は、皆さんの学びをサポートするためにコロナ禍でも継続的に行ってきました。

引き続き改善の要望等ありましたら、授業担当やクラス担任の先生にお伝えください。